

平成30年2月6日

小学生ハンドボール指導者 各位

(公財)日本ハンドボール協会
小学生専門委員長 竹内貞明

Jクイックハンドボールの一部変更に伴う競技規則の一部改訂について

日頃から小学生ハンドボールの指導にご尽力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、小学生ハンドボールのゲーム様式「Jクイックハンドボール」への変更から3年が経過し、初年度から筑波大学のご協力を得ながら、ゲーム様式の検証、考察を行ってまいりました。その結果、全国小学生大会のベスト8以上に的を絞った試合については、初年度にパフォーマンスの変化が見られたものの、3年目となる第30回記念大会では大きな変化を見ることができませんでした。しかし、Jクイックハンドボール導入により、全国各地で開催されているプライベート大会や特に低学年の子供達のゲームパフォーマンスに変化が出てきているなどのご意見もたくさんいただいております。

私達指導者が求めるものは、初めてハンドボールを手にする子供達が、楽しくのびのびとゲームを楽しみ、コートの中を縦横無尽に走り回ることによって自然と身に付けて欲しいGoodHabit「良い習慣付け」であろうかと思えます。この趣旨を指導者の皆様方がご理解いただき、日頃から実践されていることに改めて感謝申し上げます。

小学生専門委員会では、検証と考察を元に議論を重ね、現場の声を反映すべく、ゲーム様式に関するアンケート調査も踏まえた結果、今回以下の2点について競技規則の一部改訂を行うことになりました。

なお、GKからのスローオフは今回変更せず、今後もJクイックハンドボールを経験した世代の活躍を見守りながら、検証、考察を継続していきますので、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

競技規則の一部改訂内容

- ① セット数を現行の3セットから、「2セット(前後半各15分)」にする。
- ② タイムアウトを現行の1回から、「2回(前後半各1回)」にする。

(添付資料)

- ① Jクイックハンドボールゲーム様式に関する全国アンケート結果及び自由意見
- ② Jクイックハンドボールゲーム様式に分析結果(導入と効果)

「競技規則条文については、後日、日本ハンドボール協会審判委員会発行の「競技規則書 2018年版」を参考にしてください。」(1月28日(日)開催の審判合同委員会で承認済み)

この競技規則の一部改訂は、平成30年4月1日より実施いたします。

以上

小学生ハンドボールのゲーム様式等に関するアンケート

平成29年12月15日
(公財)日本ハンドボール協会
育成部 小学生専門委員会

日頃から小学生ハンドボールの指導、普及にご尽力を賜り厚くお礼申し上げます。
さて、小学生専門委員会ではゲーム様式等の検討を行うに当たり、広く皆様のご意見を伺うためにアンケート調査を実施することといたしました。つきましては、大変ご多忙の折、恐縮ではありますが、以下の項目にご回答いただき、1月10日までに各都道府県小学生担当者様にご報告ください。皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

	(現行)	(改善)	
① セット数	現状が良い(3セット)	2セットが良い	どちらでも良い (セット時間については、セット数により決定します)
② スローオフ	現状が良い(GK)	コート中央が良い	どちらでも良い
③ タイムアウト	現状が良い(1回)	2回が良い	どちらでも良い
④ コートの大きさ	現状が良い(36m)	40mが良い	どちらでも良い
⑤ 両面テープ	現状が良い(禁止)	使用可が良い	どちらでも良い
⑥ 女子試合球	現状が良い(1号球)	0号球が良い	どちらでも良い
⑦ ゴールポストの大きさ	現状が良い	小さい方が良い	どちらでも良い
⑧ ベンチ入り人数	現状が良い(20名)	少なくとも良い	どちらでも良い (少ない場合は、ベンチ入り人数16名程度)
⑨ 指導者資格保持	必要である	必要ない	どちらでも良い (資格は、J級、スポ少、日体協、教員免状を含むで検討中)

以下にご意見をご記載ください(自由記載)

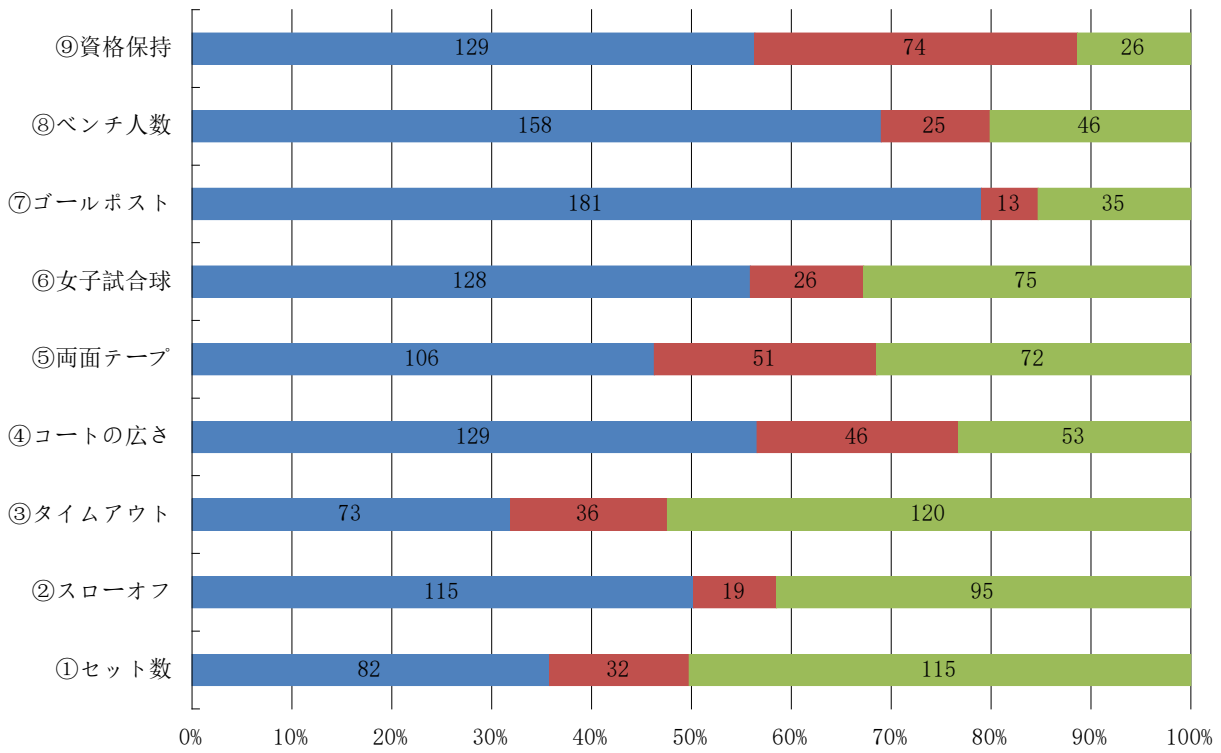
下の円をスライドして貼り付けにご使用ください。



ご協力に感謝いたします。
ありがとうございました。

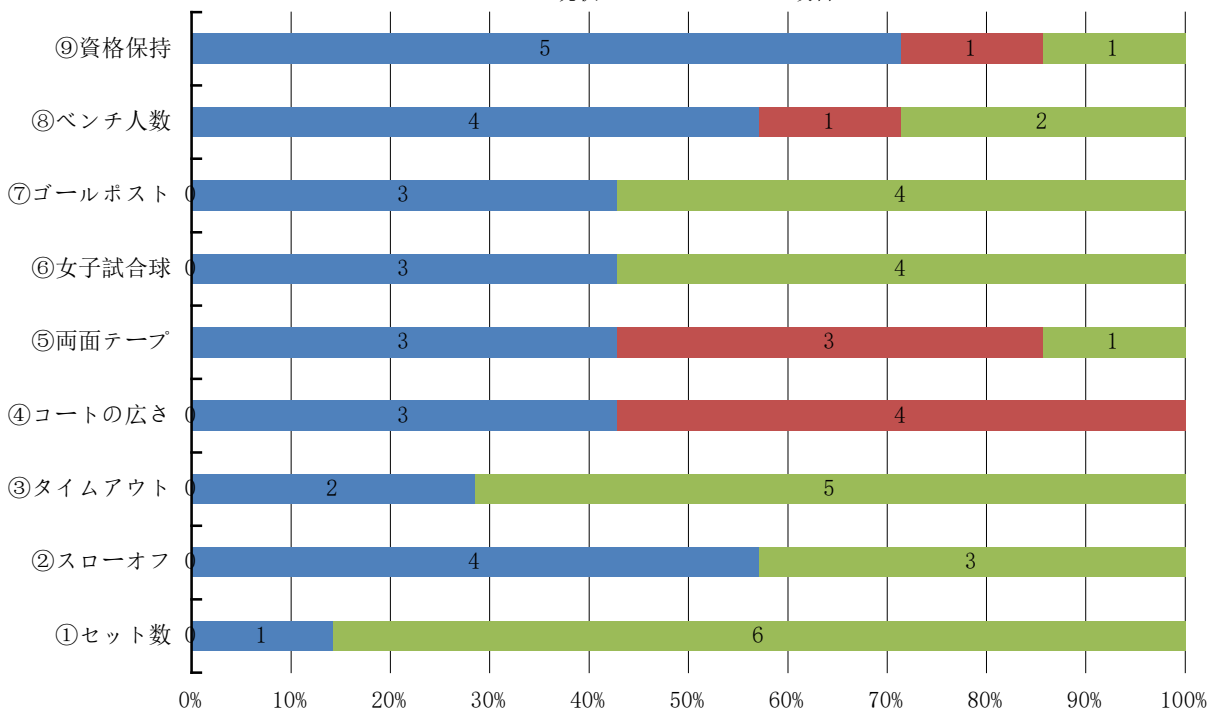
全国集計結果

■現状 ■どちらでも ■改善

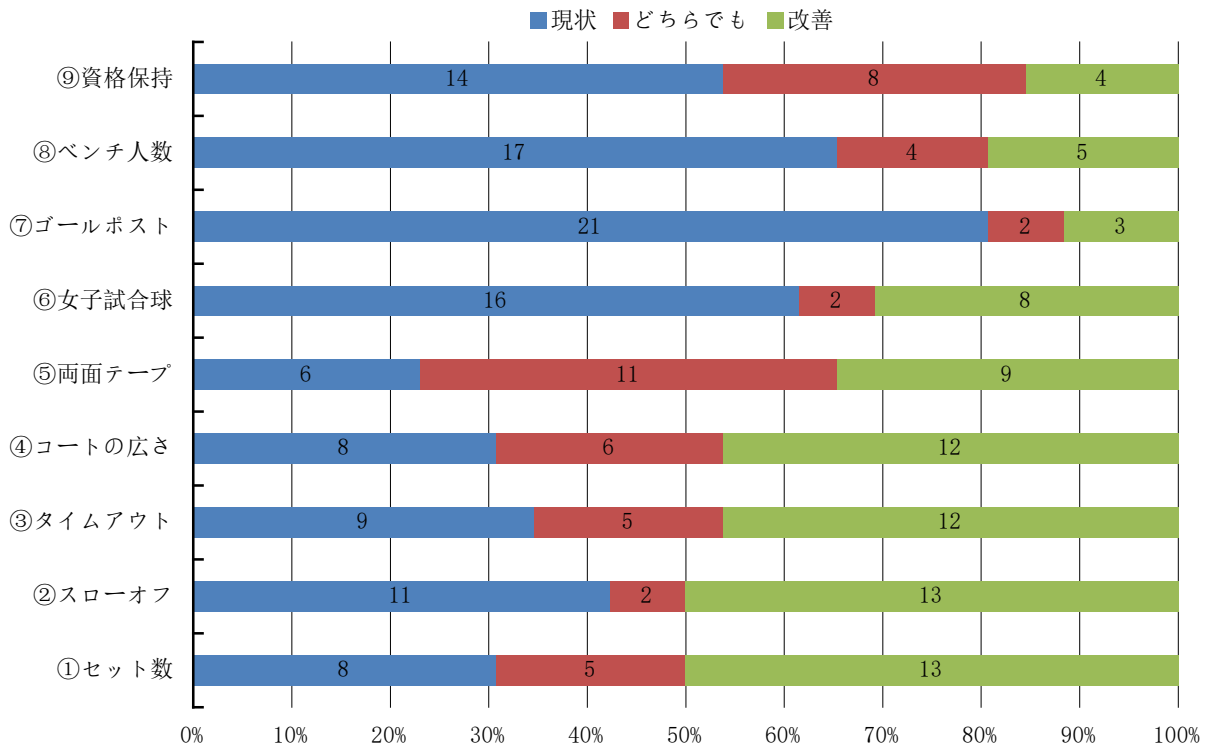


北海道

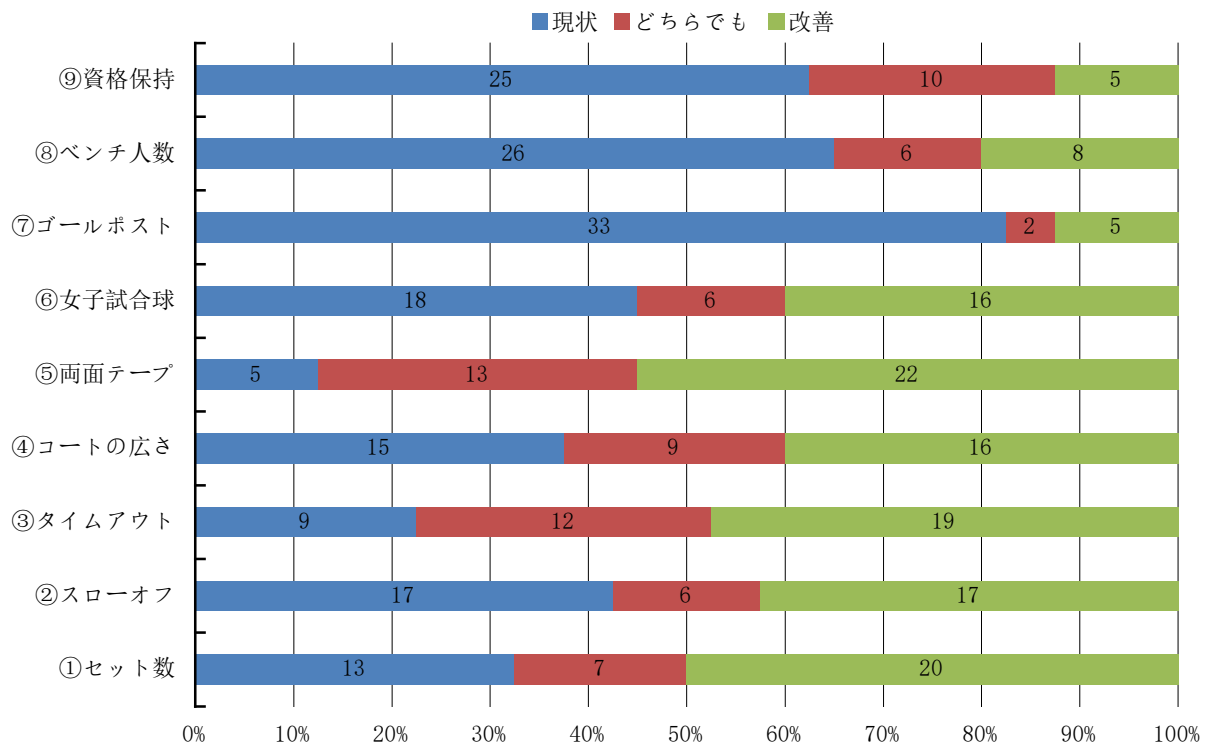
■現状 ■どちらでも ■改善



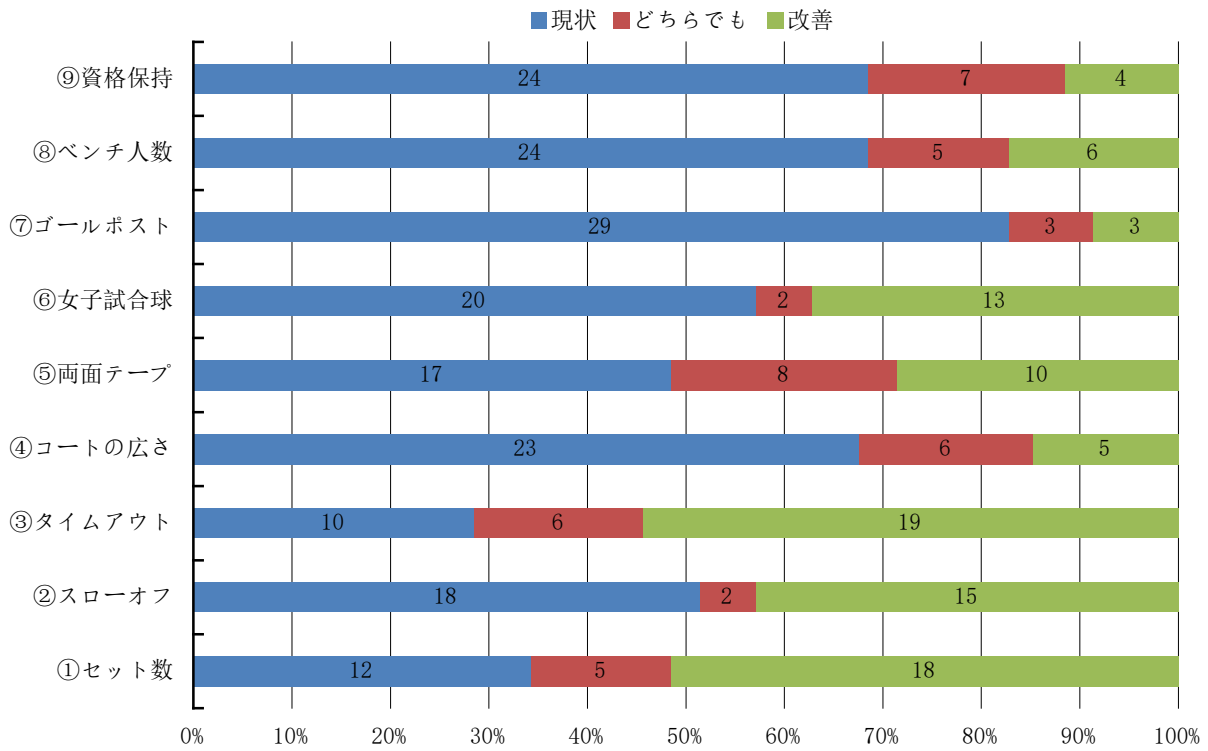
東北



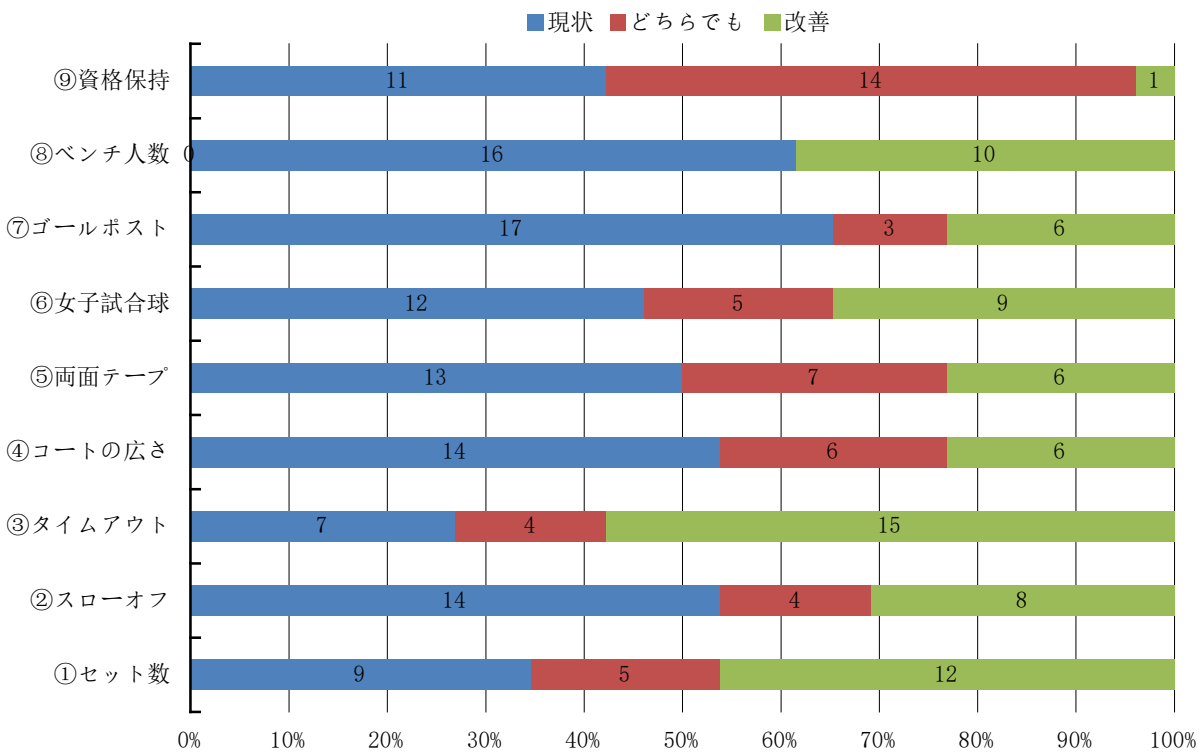
関東



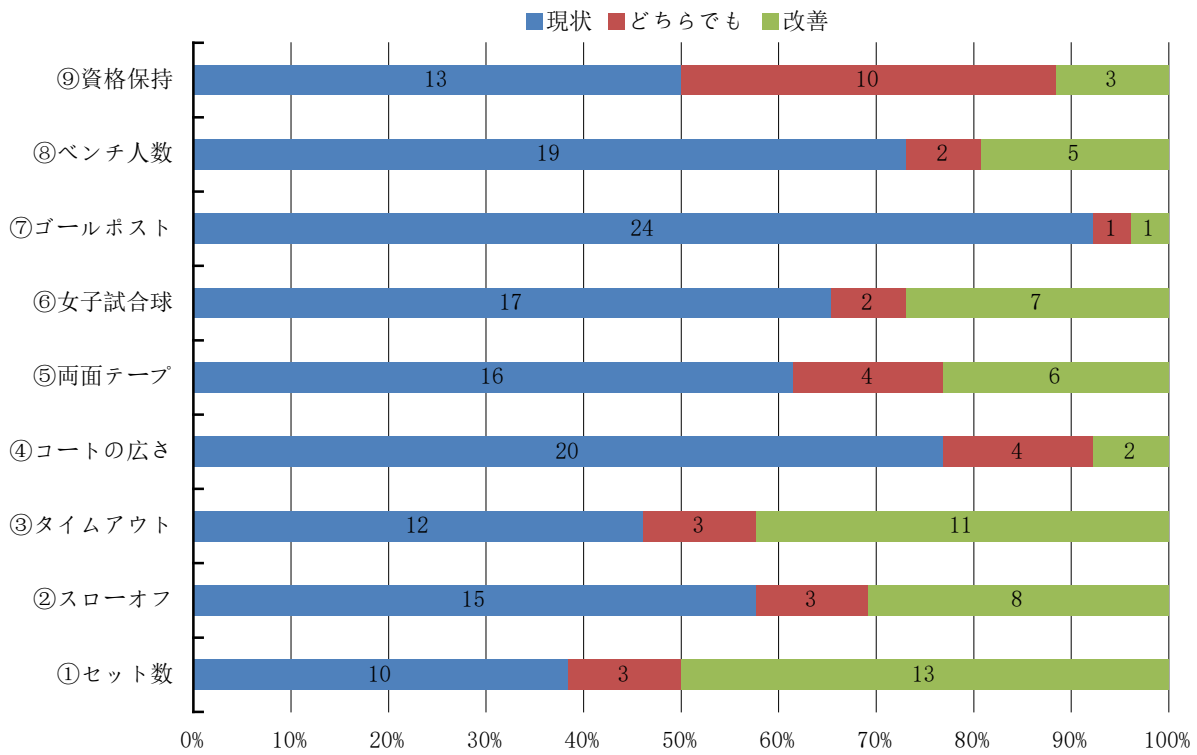
東海



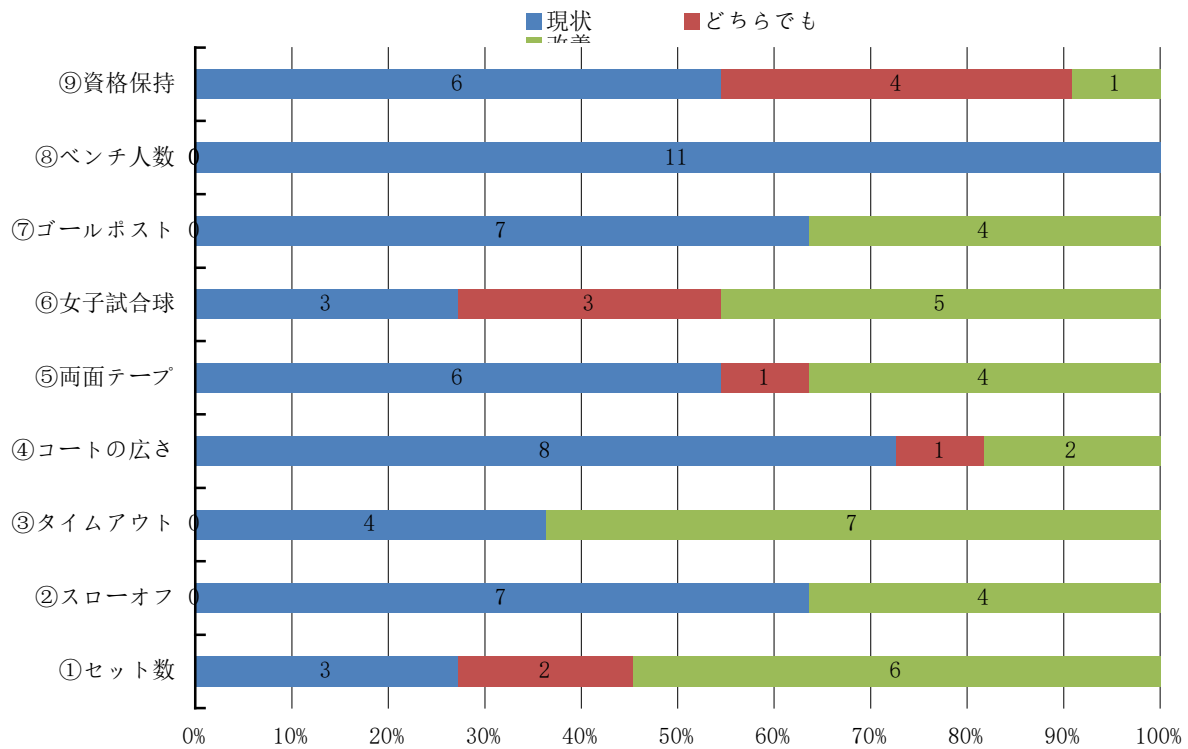
北信越



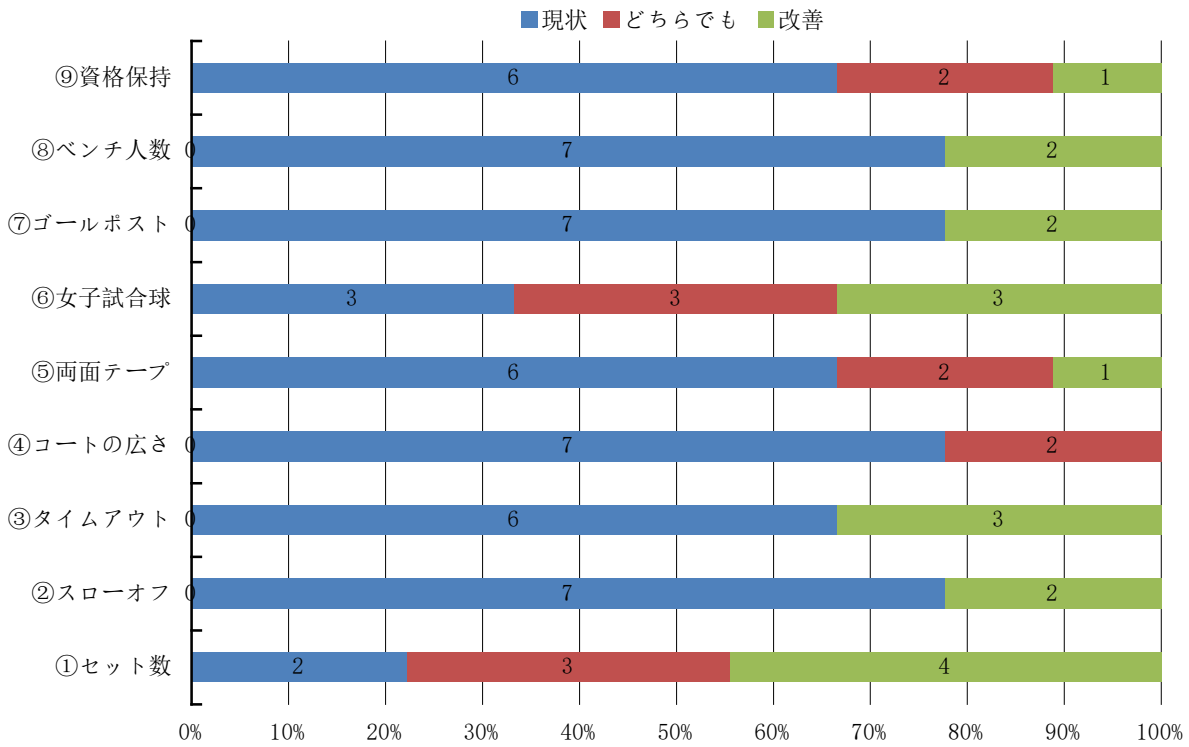
近畿



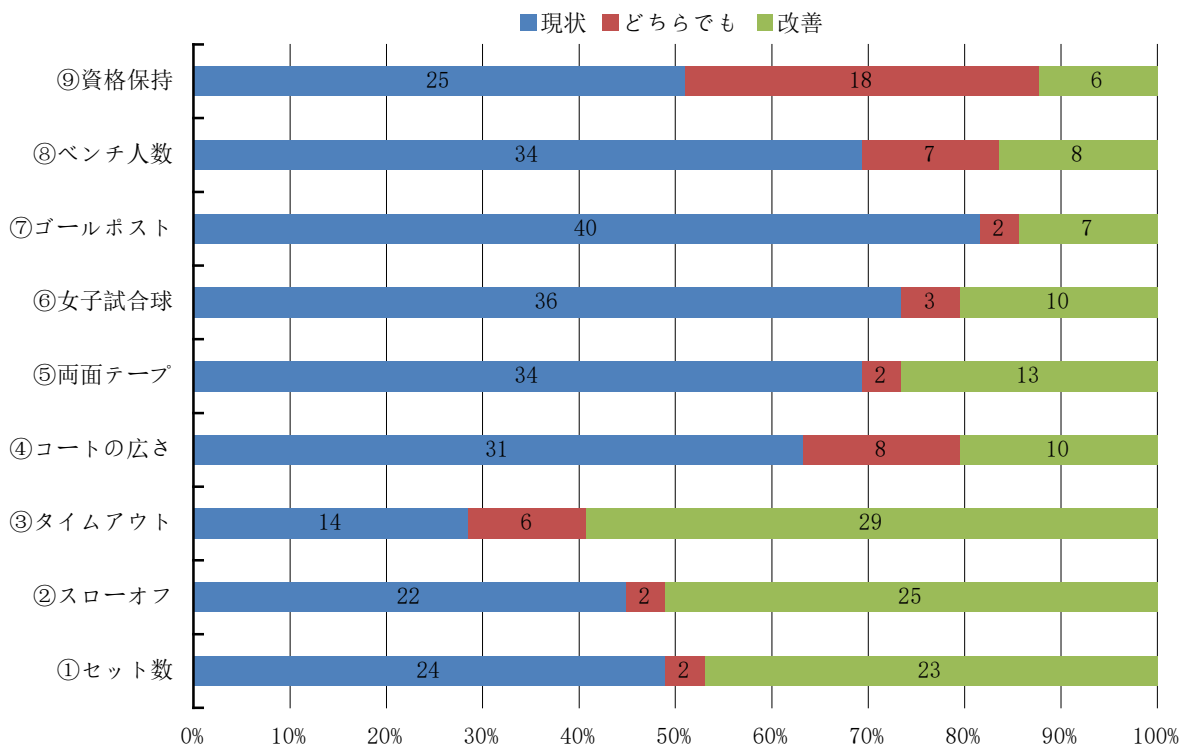
中国



四国



九州



小学生ゲーム様式全国アンケート自由意見(20180115)

【①セット数】

- ・セット数を減らすならばタイムアウトを増やさないと夏場は事故につながると思いますし、パフォーマンスも下がると思います。
- ・数年ぶりに小学生の試合（3セット）を見られた方にハンドボールの面白み（ゲームの流れ、展開等）が消えましたね。とご指摘をうけました。
- ・また攻撃回数が1回多くなることも平等性にかけると思います。
- ・中学校へつなげるためには2セット（15分）で行う方がよい。
- ・3セット（現状）で試合をする場合は、3セット目のスローオフを2セット目終了後のトスで決めると公平である。
- ・3セットではスローオフの回数に差が出てしまうので、不公平である。当初オールコートでの試合は15分では長すぎるのではという議論があったが実際にやってみるとそうでもないのではとも思われる。
- ・中学校・高校へつなげる意味でも、2セットがよいかと思う。
- ・3セット目のスローオフはリードされているチームからのスローオフがよいのではないかと。同点の場合は抽選
- ・3セット制にして、特別効果があるようには思えない。早遅や攻守システムの違いがあるので、全国のルールにこだわらず、東北独自のルールでもよいと思う。中学生以上のルールにある程度合わせ、小学生が将来戸惑いのないよう変更してはと思う。
- ・セット数は次のカテゴリーから2セットとなるので統一したほうが良い。
- ・中学校への移行を考慮した場合、ルール等は、上位からの準用がよいのではないかと。
- ・人数等も含め、ルール等の改正は、5年程度を目安でお願いしたい（子供が混乱）
- ・ジュニアについても正式ルールでよいと思います。

【②スローオフ】

- ・②のスローオフに関して、高学年はコート中央からでも良いのかなと思います。
- ・得点後のスローがキーパーからになることで、速攻が早くなった感じる。しかし、速攻ばかりとなり、ゲームメイクなどの視点で、時間と点差の意識がチーム全体的に薄れてきているのではないかと。（時間と点差を意識した OF や DF の仕方）
- ・スローオフについては、スポーツ競技において小学生だけルールが違う事が、納得いきません。一刻も早く、センタースローに戻して頂きたいです。
- ・「Jクイックルールでキーパーからボールが出るのであれば」ということが前提であり、中央からスローオフになるのであればセットは2セット、コートの大きさも40mでよいのではないかと。
- ・②について、Jクイックのスローオフ方法で一定の検証がされ、意図する効果が得られたのかどうかで決まる。検証結果が思うように得られていないのであれば、本来のハンドボールのルールに戻すべき。女子の種別においてはほとんど GK スローオフを利用して攻撃に転じていない。
- ・②③試合時間など小学生用にすることは賛成しますが、公式試合のルールは全カテゴリー共通であるべきと考えます。（プライベートカップなどでの Jクイックは賛成）
- ・スローオフは現状が Jクイックハンドボールの面白さになっている。育成面としては、速い攻めの意識や戻りの速さの意識、そして、ボール回しの必要性を植え付けるのに効果が大きいと考える。
- ・Jクイックの場合は早めの攻撃が重視され自軍への戻りが遅いため、中央スタートにしては

うかと思う。(中学につなげる意味でも)

・相手が得点をとりに行った時、ハーフラインより戻らないで相手コートで待っている選手がいる。作戦だろうが、せめセンターラインまでは戻るルールが必要と思う。

【③タイムアウト】

・タイムアウトはセット毎に1回あるとよい。セット数が2なら2回。セット数が3なら3回必要

- ・タイムアウト2回は試合が間延びしてしまうと思われる。
- ・タイムアウトは前半・後半どちらも1回ずつ取れた方がゲームメイク面で有益ではないか。

【④コートの広さ】

・小学生のゴールとコートが大人と同じという競技はハンドボールだけであるが、変更するなら先進各国の実情を調べた上で変更すべきだと思います。

・コートの広さはゴール固定金具にもよると思うが、全国大会は現状36mなので各都道府県統一できるのか。

・コートの大きさを36Mにするなら、ゴールの面積も90%に減らすべき、ゴールエリアも縮小すべきである。縦だけ短いのは規定として矛盾する。コート全体、ゴール、ゴールエリアを全体縮小するなら理解できるから。小学生のみコートサイズを変更するのも現状難しいので、あえて36mと記載しなくてよい。

- ・大人と同じサイズのコート・ゴールは、小学生は厳しいです。
- ・コートサイズは40m用として整備された体育館が主流なので36~40mで良いと感じる。

【⑤両面テープ】

・両面テープに関しては、ほとんどの大会で使用が認められている。地区大会と全国大会で使用の可否が変わるのはいかなものかと思う。

- ・両面テープを使わなくてもよいボールの開発が日本では求められると思います。
- ・全国と関東の違い(両面の使用可否)の統一は必要かと感じております。"
- ・両面テープに関しては、ブロック大会で使用している地域もあるので、全国でも使用可にしてもよいのでは? マツヤニ使用は体育館を汚すが、両面テープの使用不可の理由が分からない。
- ・松やにの使用の難しさがあるので、両面が使用できるのであれば使いたい。(中・高・大では使用しているので)
- ・両面ではなく、松やになら賛成
- ・両面テープについては小学生の間は必要ない。自分の力で握ることを第一に考えるべき。
- ・両面テープの使用はジュニア期からしっかり握ってプレーすることやストレスなくキャッチングの上達を促す為、是非解禁していただければ。
- ・⑤ハンドリング向上のため、両面テープまたは準じたすべり止めを要望します。(スプレー松やにのほうが安全かもしれませんね)
- ・両面テープを使用させるよりは、男子も0号球でしっかりボールを握るようにしたほうが、将来ボールコントロールが出来るようになると思う。

【⑥女子試合球】

- ・ボールに関しては成長に合ったサイズが望ましい。
- ・女子試合球0号球としたのは、中学生女子が1号球変更の場合です。
- ・小学生は特に個人によって成長の差が大きい一概にこれがいいとは言えないところが多々あります。まずはボールを握ってプレー出来ることでプレーの幅が広がると思います。

- ・小学生の場合、6年生は女子の方が平均身長が高く、体力差もあまりないので、0号球にする必要はない（男女とも5年までは0号、中1男女は1号、女子は中3まで1号が良い）。
- ・ボールに関して女子の使用球について検討が始まっていることを歓迎します。身長や手の大きさのせいで十分なプレイができない子や、基本の姿勢が身につかない子がいます。
- ・女子のボールについては握ってボールを扱えないことから投げるフォームが良くないことや、シュート力が不足することに繋がっているのを握ってボールを扱うことができる0号球の使用を希望しますが、体や手の大きい子供が扱おうとスピードが出てしまい、かえって危険になる場合もあると思いますので体格差のある場合は難しい。
- ・女子だけでなく、男子も0号球が良い。
- ・女子試合球については中学生のボールが1号球になれば小学生を0号球にしても良いのでは。
- ・女子の試合級は、中学校が2号球で実施するのであれば、0号球から2号球になると戸惑いが多く、中学校になってより両面テープなどに頼ってしまうことが予想されるため不可。中学校女子が1号球になるのであれば、検討してもよい。
- ・⑥の女子ボールについてですが、小学生で0号球となれば、中学生になると1号球→高校生2号球と男子のようにカテゴリが変わるごとにボールの大きさを変えていったらいいと思います。
- ・しっかり握って肘を上げるという基本動作を身につけさせるためには有益ではないか。
- ・低学年は0号球でよい
- ・ボールを握れる！ことがとても大切なので、ボールの大きさ、柔らかさは配慮してほしいです。
- ・ボールサイズは、是非とも早急な改正を望みます。
- ・ボールを掴む事から考えると（松やに→0号球→両面）、女子には配慮が必要。

【⑦ゴールポスト】

- ・ゴールの大きさに関しては、昔は小さい方が良いと思っていましたが、小学生でもあの大きさで十分やれると思っています。かえって小さくすれば用具代がものすごくかかり、単に用具メーカーを儲けさせるだけ、変えたら普及に大きなマイナスになると思います。
- ・ゴールポストの大きさに関しては、低学年のみゴールの高さを低くするのが望ましい。
- ・⑦のゴールポストの大きさについて→低学年は小さい方が良い
- ・能力の高い6年生対象であれば上記で良いと思いますが、普及と早い時期での選手獲得にはスポーツの入り口の低学年向けサイズ又は軽スポーツの位置づけのハンドボールが必要と考えます。
- ・ゴールに付いては小さいほうが望ましいと思うが、運用上、また練習環境を整える意味で難しい。2m×1.5mのネットのようなものをゴールポストに取り付けることでゴールを小さく出来るのであれば、キーパーとの駆け引きも学べるので良いと思う。現状では球が速くてコントロールが良いプレイヤーが有利すぎると思う。
- ・低学年は、ボールやゴールの変更があっても良い。高学年の場合は、身長の差が大きいので何とも言えない。
- ・ゴールポストは小さい方が良いが、現実問題としては、公共の体育館をしようする為に設置されたものを使用している。電車移動の指導者が多いため、厳しい。
- ・ゴールポストは今より小さいほうが子供にとって良いと思いますが、普段の練習時に使用することができなければ試合時だけの対応になってしまう。
- ・コート広さ、ゴールポストの大きさ等は公共施設の付帯設備でもあるので変更は現実的に難しい。
- ・コートとゴールの大きさを低学年、高学年で変えるべき。
- ・ゴールの大きさは小学生にとっては小さくすることも方法の一つだが、小さくすることによって現場ではゴール買い替えの費用が発生するため、できれば現状のままが良い。
- ・ゴールポストの変更の場合、新ゴールの購入は、難しい（借用施設のため）

【⑧ベンチ人数】

- ・ベンチ入りは減らし、15人以上いるチームは2チーム出場できる配慮をしてはどうでしょうか？
- ・ベンチ入り人数は少なくても構わないが、コートに立てなくても間近でプレーを感じる事ができるという体験を少しでも多くの子ども達にさせてあげたい。
- ・⑧コーチングゾーンの関係で人数を少なくしてほしい。ベンチ端までだと広すぎる。
- ・ベンチ入りの人数は、20人いても試合に出られる機会が限られてしまうので、もう少し少ない方がいいと思います。また、ベンチエリアも広くなってしまうので、競技規則に合わなくなっている現状もあります。
- ・小学生の現状は個人差が大きく、わずかな時間しかコートに出せない（または出せない）メンバーが必ずいることから、ミニバスケットボールのよう、ベンチ入りのメンバーを全員コートに送りだせるようなルールの必要性を感じる。（そのための3セットの試合が望ましい。そうでなければ3セットにした意図がわからない。）

【⑨資格保持】

- ・指導者資格に関しては、あった方がよいとは思いますが、余計な縛りは指導者を減らすことにつながると思います。
- ・指導者資格保持はベンチ1名保持でよいと思う。
- ・指導者の資格保持義務化ですが、導入するのであれば、慎重な議論が必要であると感じています。まずは指導者についても十分な普及を考え、指導者の増員を図るべきだと思います。
- ・資格に関して教えて頂きたいのですが、J級、スポ小、日体協とは誰でも取得できるのでしょうか？
- ・資格は事故防止のためにも必要だと思います。
- ・資格保持についての、費用が高すぎます。ボランティアで支えているスタッフについて更なる負担を負わすこととなります。もう少し検討してほしいです。
- ・審判の育成及び各チーム2名程度の資格保持者が必要
- ・子供を指導する上で必要な知識や考え方を保有した指導者が指導すべきだと思います。その資格としてなにが適切かは難しいところかと思えます。
- ・指導者資格は個人的には必要だと考えています。ただ小学生の指導者はボランティアで関わっている方がほとんどだと思うので制限を課すのは難しいと考えます。ですが体罰やいじめの問題、今の指導者たるもの・・・という研修・講習は必要だと思います。指導者資格も数年に1回は更新講習などを行ったほうが良い。また資格を提示するのは全国大会のみで良いと思う。
- ・資格は審判のB級以上も含めるとよい。（審判ができる人を増やす）
- ・資格云々より、年1回の研修制度を設けるほうが実利がある。（審判講習会と同じ）
- ・指導者資格について必要なしと回答しましたが、現在の仕組みでは取得が困難であるというのが正直なところです。資格必須とするのであれば日本協会主導で各ブロック、県協会で資格が取得し易い環境を整備して資格を継続する上での運用のし易さを明確にすることが必須。資格を必須とする目的は日本協会としての指導方針の元に各地域で指導することが必要であること、小学生の体調管理を行う上で最低限の知識を学び、予防策や緊急処置が出来るようになることではないかと思いますが、目的を明確にした上でどの資格を必要とするのか統一してほしい。
- ・指導者資格は必要。
- ・小学生においては体力面、技術面よりもハンドボールの楽しさを教えることが大事なような気がします。そのためにも自分も含め指導者の資質向上が求められると思います。
- ・⑨年1回程度の講習会を受講する義務を与えるなど、資格だけではない取組にしてほしい。

- ・指導者資格は、幅広い基準でお願いしたい。教員免許が含まれることをぜひお願いしたい。
- ・チーム登録時に一名以上の資格保持者が必要としておく程度にとどめておくとうい。
- ・J級指導者資格は最低限必要ではないか。(子供たちの発達段階の知識理解・競技力向上のため)
- ・指導者資格に関しまして、若い指導者も少ないですので門戸を開くためにもまずはハンドボールに熱意のある若手指導者が入りやすい環境を各都道府県で検討することが重要かと思ひます。また、資格取得にも多大な費用がかかりますこと、それを個人負担でする所、県か負担する所と様々ですので、こちらも吟味させていただくことを望み申し上げます。失礼申し上げます。
- ・指導者資格は必要だが、一般の会社員などでは日体協などの資格は休日等の関係で取得しづらひです。
- ・ハンドボールを教える＝人間形成の場 なので指導者資格は絶対に必要です。大人の偏った思ひだけで指導するべきではないです。
- ・ベンチ入りする指導者(監督・コーチ)全ての者が資格を有していることは理想であると考えますが、監督及びベンチに立つ指導者は最低限資格を有しているべきだと考えます。
- ・⑨は、資格取得の場合、教員及び実業団等でない一般指導者は、長期の資格取得の受講が難しひ。(チームに資格取得者登録が限度)(小学生は、学校外の活動が多い資格で教員は?)
- ・J級指導員資格取得または更新のための講習会をもっと開催してほしい。
- ・J級資格が必要であるかないか、明確にしないと、取得しようとする人が増えないと思ひう。
- ・指導者資格保持は、チームに資格者が1人いればよいと思ひます。
- ・日体協の資格は、保持、更新が面倒で役に立たない。ハンドボール協会でブロックごと指導者交流会を兼ねた研修があるとよいと考える。毎年、ブロック各地で開催し、(チームで1名が2年に1回の参加で十分だと思ひう。)
- ・資格は必要だと思ひますが、各県で簡単に取得更新ができるようになることを望みます。

【⑩その他】

- ・暫し現状ルールを継続し効果判定してみたい。スピーディーであることは実感しており、選手育成の礎としての機能があると思ひう。
- ・プライベート大会だけでなく、全国大会も含めて、男女混合を認めてもらえると子供達のチャンスが広がるような気がします。
- ・現状のセット数やスローオフも良いとは思ひますが、小学生だけということに違和感を感じるところもあります。いずれにしてもあまり頻繁に変えない方がよいと思ひます。
- ・指導者が考えるべき点では現状のルールでは、両サイドをただ走るだけの選手(特に低学年)が出てしまひう
- ・ハンドボールを研究材料にするのは構わないが、指導現場が困惑するような短期間でのルール改正は控えてもらひたい。
- ・全国大会の近隣の強制的な審判派遣についても、とても疑問を感じます。全国大会等、大きな大会については、掛かる費用の決算報告が、有って欲しいとおもひます。
- ・フリースローからはパスを2回しないとシュートが打てないなどのルール変更が必要だと思ひう。(ボールが小さくなって長身選手のフリースローからのロングシュートが簡単に入るのは見ていてつまらない)
- ・中学生以上のルールに順応できるようにしてほしいので基本的にルールは共通で試合時間・ボールの大きさが違う程度の差だけにしてほしい。
- ・中学生への移行はスムーズにいつているのでしょうか?
- ・情報が断片的にしか伝わってこないので全体が見えてきません。
- ・多くのチームと情報を共有し、発信していただけるとありがたいです。
- ・小学生の発達段階としては、機敏なフットワークを育てるのが大切だと感じる。そのため、高

めのディフェンスを義務付け、スピーディなハンドボールが展開できるようにしたい。

- ・全国大会の予選を、県→ブロック予選→全国大会すべき。ブロック大会の充実を図ること、県の競技レベルの格差をなくすこと

- ・全国大会の開催時期の考慮や、競技運営の質の向上と日程や経費の縮小（9ブロック、18チームから24チーム）

- ・競技のルールは、どのカテゴリーにおいても同じ方が良くと思います。ただし、コートの大さき、ボールの大さき、競技時間に関しては、発達段階に応じた配慮が必要だと思います。

- ・稀にしか獲得できない全国大会等の出場に際し、ユニホーム等の2着整備は保護者に多額の負担をかけることとなるが善処出来ないか（1着分はベスト対応可と願いたい）

- ・小学生の大会・交流会が各地区で工夫を凝らし計画実施されていますが、その情報を簡単に得るための手法を確認したい（フリー参加の場合）

- ・一部議論があった（と聞いている）9m外からのシュートが2点になるなどの小学生特別ルールは現場が混乱するのでやめてほしい。

- ・たとえ正面でも相手を抱えて動きを止めるディフェンスのプレーや横・後ろなどの死角から相手の動きを止めたり、バランスをくずしたりするようなファウルについては一層厳しく判定するようにしてほしい。警告を判定されなければ掴んだり・押ししたりがプレーとして許されるというのは、入門期の小学生のやる気を削ぐことにつながり、また、ルールの趣旨に反するのではないか。

- ・各チームで考えれば良いと思うが、DFが高めのため切りやDFの裏取りなどは格段に上達しているが1対1の強さは弱くなっているように思える。

- ・3セットあるので1セット目と3セット目は高めのDFで2セット目は1戦DFなどを取り入れるなど

- ・サッカーのように男女混合での参加はどうか。（人数が少ないチームでも試合ができるように、男子の試合に参加できる等）

- ・小学生も細かくカテゴリーを分けてほしいです。

- ・身体接触の怖さを軽減してあげたいです。特に1~3年生

- ・4年生以上の女子の人数が少なくて試合に出ることができないので、男女混合も可能にしてください。

- ・高いDFを推奨ではなく、必ず行うルールがあつてこそそのJクイックではないのか？

- ・6-0が認められるのなら人数を減らす。5-0ならば展開力が増す。他競技の少人数化をヒントにする。サッカー、ラグビー等。

- ・ベンチ入り全選手の出場を義務化。

- ・「カットインの経験を多く」「シュートの醍醐味の経験」との趣旨で現行ルールが始まったと思いますが、最近では、大会での勝利を目指し、ディフェンスがラインで行われるようになってきています。試合の中でシュートができない場面が多く見られるようになったように感じます。この点はなんとかならないのでしょうか。「育成」と「強化」の折り合いが付くとよいのですが。

- ・小学生にチャンピオンシップの大会の必要無し

- ・ディフェンスが9m付近の高い位置で行う為、ハンドボールがスピーディで面白く見ることが出来たと思いますので、ディフェンス形式の統一が出来れば良いと思います。

- ・高いDFのルールの厳罰化を求めたい。

**全国小学生ハンドボール大会における
新ゲーム様式「Jクイックハンドボール」導入の効果
—導入前後のゲームパフォーマンスの比較から—**

(分析結果速報：平成 29 年 9 月 12 日)

報告者：會田 宏¹⁾，藤本 元¹⁾，山田 永子¹⁾，仙波 慎平²⁾，永野 翔大³⁾
中山 紗織³⁾，小俣 貴洋³⁾，吉兼 練⁴⁾，日比 敦史⁴⁾，福田 丈⁴⁾
服部 友郎⁴⁾

1) 筑波大学体育系

2) 筑波大学非常勤研究員

3) 筑波大学大学院 3 年生博士課程コーチング学専攻

4) 筑波大学大学院博士前期課程体育学専攻

要約

本調査の目的は、平成 27 年度全国小学生ハンドボール大会において導入された新ゲーム様式「Jクイックハンドボール」の効果について検証することであった。平成 26～29 年度の全国小学生ハンドボール大会における男女それぞれの準々決勝以上の 8 試合（平成 29 年度は 3 位決定戦が行われなかったため 7 試合）の中で、映像に不具合がない試合のゲームパフォーマンスを分析し、それを導入前（平成 26 年度）と導入後（平成 27～29 年度）との間で比較することを通して、「Jクイックハンドボール」の 3 つのねらい、(1) 間断のない攻防、(2) オープンディフェンスの積極的な採用、(3) 空いている／空けたところを攻める意識の向上が達成されたかどうかを調査した。

(1) 男子

新ゲーム様式導入直後は、攻撃回数の増加、攻撃 1 回あたりのパス回数の減少、3 ラインディフェンスの増加、9m 内でのフリースローの増加、カットインとミドルシュートの増加が見られ、「Jクイックハンドボール」の掲げた 3 つのねらいが達成されたことが確認できた。しかし、導入後の 3 年間を総合的に見ると、攻撃回数および得点数は増えたものの、攻撃成功率、ミス率、シュート成功率はほとんど変わらず、1 ラインディフェンスは減少したが、その分、退場時の防御が増加したため、オープンディフェンスは増加しなかった。また、攻撃完了局面（速攻とセットの比率）、ミスの種類、ミスのエリア、シュートエリア、シュートのステップパターン、シュート結果、1 回の攻撃あたりのフリースロー回数および

パス回数もほとんど変わらなかった。これらのことから、ゲームパフォーマンスから見ると、「Jクイックハンドボール」のねらいが達成できたとは言えないと結論づけられる。

(2) 女子

新ゲーム様式導入直後は、攻撃回数の増加、攻撃1回あたりのパス回数の減少、3ラインディフェンスの増加、9m内でのフリースローの増加、カットインとミドルシュートの増加が見られたことから、(1)間断のない攻防、(2)オープンディフェンスの積極的な採用に関しては達成されず、(3)空いている／空けたところを攻める意識の向上のみが達成されたことが確認できた。しかし、導入後の3年間を総合的に見ると、攻撃回数および得点数の増加、サイドシュートの減少、カットインシュートの増加は見られたが、攻撃成功率、ミス率、シュート成功率、防御隊形、攻撃完了局面、ミスの種類、ミスのエリア、シュートのステップパターン、シュート結果、1回の攻撃あたりのフリースロー回数およびパス回数は、男子と同様にほとんど変わらなかった。これらのことから、空いている／空けたところを攻める意識の向上以外、「Jクイックハンドボール」のねらいが達成できたとは言えないと結論づけられる。

結果

1. 攻撃の全体像

攻撃の全体像を明らかにするために攻撃回数，得点，ミス数（シュートに至らなかった攻撃回数）を調査した．次に，攻撃成功率〔＝得点÷攻撃回数×100（％）〕，ミス率〔＝ミス数÷攻撃回数×100（％）〕，シュート成功率〔＝ゴール数÷（攻撃回数-ミス数）×100（％）〕を算出した．

男子，女子ともに，新ゲーム様式導入後に攻撃回数および得点が増加した．

表1 攻撃の全体像

	男子				女子			
	26年度 8試合	27年度 7.67試合	28年度 8試合	29年度 7試合	26年度 6.5試合	27年度 8試合	28年度 8試合	29年度 7試合
攻撃回数(回)	41.7±3.1	47.7±4.6	45.6±5.7	46.4±5.0	39.4±4.7	40.1±3.1	44.6±4.2	44.0±7.1
得点(点)	14.2±4.8	18.9±7.8	16.8±4.4	16.5±2.6	11.3±4.7	11.8±3.4	13.4±4.5	14.8±6.4
攻撃成功率(%)	34.1±11.5	39.8±16.3	37.0±8.0	35.5±4.3	28.6±11.5	29.4±8.22	30.4±10.3	33.0±12.0
シュート成功率(%)	49.9±13.3	55.4±16.0	54.6±11.3	53.4±7.3	42.5±13.7	41.0±8.29	44.6±13.7	46.3±15.1
ミス率(%)	32.6±11.0	30.0±12.7	31.9±10.5	32.6±10.2	34.0±13.1	29.0±10.0	32.2±6.7	29.2±5.8

2. 防御隊形

男子は，新ゲーム様式導入後 1 ラインディフェンスが減少し，退場時のディフェンスが増加した．女子は，導入前後で変化はなかった．

表2 防御隊形

	男子				女子			
	26年度 (n=675)	27年度 (n=732)	28年度 (n=729)	29年度 (n=650)	26年度 (n=515)	27年度 (n=625)	28年度 (n=713)	29年度 (n=616)
クローズドディフェンス 1ライン(%)	19.4	3.6	15.5	4.9	27.0	36.9	23.0	23.1
オープンディフェンス(%)	48.3	59.0	51.9	51.5	42.4	28.9	42.5	38.6
2ライン(%)	15.3	12.4	33.2	20.3	35.8	19.0	29.0	37.8
3ライン(%)	33.0	46.6	18.7	31.2	6.6	9.9	13.5	0.8
組織化される前(%)	26.5	27.9	27.0	20.2	22.3	22.6	22.6	19.3
退場時(%)	3.4	3.6	4.1	14.2	2.1	1.8	2.9	6.8
その他(%)	2.4	5.9	1.5	9.2	6.2	9.8	9.0	12.2
合計(%)	100	100	100	100	100	100	100	100

3. 攻撃完了局面

男子、女子ともに新ゲーム様式導入前後で変化はなかった。

表3 攻撃完了局面

	男子				女子			
	26年度 (n=675)	27年度 (n=732)	28年度 (n=729)	29年度 (n=650)	26年度 (n=515)	27年度 (n=625)	28年度 (n=713)	29年度 (n=616)
1次速攻(%)	12.6	15.2	11.0	12.6	7.2	6.6	7.6	9.1
2次速攻(%)	5.2	5.2	6.3	4.5	2.9	7.4	6.7	4.1
3次速攻(%)	8.7	7.5	10.1	7.1	12.2	8.6	9.0	8.3
遅攻(%)	67.7	61.2	65.3	68.9	68.2	70.0	68.4	68.5
特殊局面(%)	5.8	10.9	7.3	6.9	9.5	7.4	8.3	10.1
合計(%)	100	100	100	100	100	100	100	100

4. ミスの種類

男子、女子ともに新ゲーム様式導入前後で大きな変化はなかった。

表4 ミスの種類

	男子				女子			
	26年度 (n=218)	27年度 (n=217)	28年度 (n=229)	29年度 (n=210)	26年度 (n=171)	27年度 (n=181)	28年度 (n=230)	29年度 (n=178)
ターンオーバー(%)	47.3	41.5	41.9	41.0	39.8	41.4	43.5	42.7
ポイントオーバー(%)	6.9	10.1	3.5	10.0	4.7	9.4	3.9	5.1
オーバーステップ(%)	23.4	18.0	21.4	16.2	14.6	9.9	23.0	22.5
イリーガルドリブル(%)	2.8	0.9	1.7	0.5	1.8	1.1	3.5	2.2
キックボール(%)	3.7	2.8	2.6	2.9	4.1	4.4	3.1	2.8
オフエンシブファール(%)	8.7	6.5	11.4	10.9	10.5	12.7	9.6	8.4
パッシングプレー(%)	1.8	3.2	1.3	0.5	4.1	3.9	0.4	1.7
テクニカルミス(%)	52.7	58.5	58.1	59.0	60.2	58.6	56.5	57.3
パス・キャッチミス(%)	29.8	30.4	40.2	39.0	42.7	38.2	40.4	37.1
被スティール(%)	22.9	28.1	17.9	20.0	17.5	20.4	16.1	20.2
合計(%)	100	100	100	100	100	100	100	100

5. ミスのエリア

コート縦に9mごとに4分割し、ミスのエリアを調査した。男子、女子ともに新ゲーム様式導入前後で変化はなかった。

表5 ミスのエリア

	男子				女子			
	26年度 (n=218)	27年度 (n=217)	28年度 (n=229)	29年度 (n=210)	26年度 (n=171)	27年度 (n=181)	28年度 (n=230)	29年度 (n=178)
エリア1(%)	0.9	3.7	12.2	4.8	1.8	3.3	9.6	1.1
エリア2(%)	3.2	3.7	6.6	5.2	4.7	3.9	4.8	1.7
エリア3(%)	37.6	22.1	40.2	38.1	40.9	29.3	37.4	41.0
エリア4(%)	58.3	70.5	41.0	51.9	52.6	63.5	48.2	56.2
合計(%)	100	100	100	100	100	100	100	100

6. シュートエリア

男子は、新ゲーム様式導入前後で変化はなかった。女子は、導入後、サイドシュートが減少し、カットインシュートが増加した。

表6 シュートエリア

	男子				女子			
	26年度 (n=457)	27年度 (n=515)	28年度 (n=500)	29年度 (n=440)	26年度 (n=344)	27年度 (n=444)	28年度 (n=483)	29年度 (n=437)
サイド(%)	20.1	16.7	24.0	28.6	26.5	19.1	17.4	16.2
ポスト(%)	9.0	7.2	12.4	5.9	3.5	7.2	7.6	8.0
カットイン(%)	27.8	39.4	30.8	28.4	20.3	27.7	31.7	30.0
ミドル(%)	10.5	18.4	13.8	8.9	16.3	14.9	15.7	11.9
ロング(%)	28.4	14.2	15.6	23.6	28.5	24.8	22.8	30.7
7mスロー(%)	4.2	4.1	3.4	4.6	4.9	6.3	4.8	3.2
合計(%)	100	100	100	100	100	100	100	100

7. シュートのステップパターン

男子、女子ともに新ゲーム様式導入前後で変化はなかった。

表7 シュートのステップパターン

	男子				女子			
	26年度 (n=438)	27年度 (n=494)	28年度 (n=483)	29年度 (n=420)	26年度 (n=327)	27年度 (n=416)	28年度 (n=460)	29年度 (n=423)
ジャンプシュート(%)	91.6	93.7	89.6	96.7	91.8	95.5	94.1	97.7
ステップシュート(%)	6.6	4.9	7.9	2.1	7.3	3.1	3.7	1.9
ランニングシュート(%)	1.8	0.4	0.8	0.2	0.6	0.7	1.3	0.2
スタンディングシュート(%)	0.0	1.0	1.7	1.0	0.3	0.7	0.9	0.2
合計(%)	100	100	100	100	100	100	100	100

8. シュート結果

男子、女子ともに新ゲーム様式導入前後で変化はなかった。

表8 シュート結果

	男子				女子			
	26年度 (n=456)	27年度 (n=515)	28年度 (n=500)	29年度 (n=440)	26年度 (n=344)	27年度 (n=444)	28年度 (n=483)	29年度 (n=437)
ゴール(%)	51.0	56.0	53.8	52.5	43.2	39.6	44.5	47.4
ゴールキーパーセーブ(%)	30.0	24.1	29.6	23	26.2	35.6	35.2	23.3
枠外シュート(%)	16.2	18.1	14.2	20.5	27.3	21.6	15.9	24.9
シュートブロック→ゴールキーパーセーブ(%)	1.5	0.6	0.6	0.2	1.2	1.1	1.7	2.3
シュートブロック→ボール喪失(%)	0.9	0.6	0.6	2.3	0.9	0.7	1.0	1.2
シュートブロック→ボール再獲得(%)	0.4	0.6	1.2	1.6	1.2	1.4	1.7	0.9
合計(%)	100	100	100	100	100	100	100	100

9. フリースロー回数およびパス回数

男子、女子ともに新ゲーム様式導入前後で変化はなかった。

表9 フリースロー回数とパス回数

	男子				女子			
	26年度	27年度	28年度	29年度	26年度	27年度	28年度	29年度
フリースロー回数	0.23±0.56	0.23±0.54	0.30±0.67	0.28±0.56	0.38±0.62	0.34±0.66	0.31±0.59	0.25±0.63
パス回数	7.3±4.8	5.7±4.1	7.3±4.9	6.8±4.7	7.9±5.2	8.6±5.5	6.9±5.1	7.0±4.6

以上